

食品等流通合理化促進事業のうち農産物等物流業務効率化モデル形成事業（青果物流通技術実証等の取組事業）に関する事業評価票

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 （検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等）	農産局長等の意見
				基準年 （計画策定時）	目標年	目標値	達成度合			
福岡県	福岡県青果物物流合理化協議会	令和2年度	生産者の高齢化により縮小傾向にある園芸産地では、出荷量のロット不足とホワイト物流への移行など運送コストの増加が懸念されている中、令和2年度に稼働した県北地区広域販売センターを核として県北地区5JA等において県下モデル的に共同運送を行い、従来のトラック運送の効率化（バラ積からパレット積への転換）を図り、遠距離運送の継続及び経費抑制を目指す。	（令和元年） 数量当たりの運送経費（円/kg） 79.8円/kg	（令和2年） 数量当たりの運送経費（円/kg） 71.1円/kg	数量当たりの運送経費（円/kg） 71.1円/kg	100%	いちごシーズンは11月下旬（1番果）～5月（5番果）までであるが、品質および需要の高い2番果（1月中旬～3月上旬）を想定して、1月24日から3月6日まで計30回の共同輸送を実施。	・構成員は生産者団体1、物流事業者1、実需者1及び県。実施具体策の検討のため、協議会を年1回開催。 ・調査・分析のため、関東市場において取引会議、いちご他目合わせ会、中間検討会を予定していたが、コロナ禍の影響により中止。 ・2番果を想定したパレットによる共同運送を30回実施し、トラック運送の効率化の実証を行った。	本事業の成果目標は、事業で取組む青果物の数量当たりの運送経費を事業実施前と比較し、10.9%以上削減することであるが、30回のうち9回の運送について成果目標を達成する結果となった。また、継続的共同輸送体制の確立が図られた。 成果目標を達成できなかった21回の運送については、令和2年度は、天候の影響によりいちごの生育が遅れ、集荷率が低下したことを原因とする低積載によるものであり、通常の積載数量を確保できれば、成果目標を達成できることも検証されており、一定の事業成果があったことが認められる。
福岡県	福岡大城青果物物流合理化協議会	令和2年度	トラックドライバーの乗船が不要な船舶輸送体制の構築（パレット輸送含む）による時間当たりの運送経費、ドライバーの運転時間、出荷関連作業時間の削減。	（令和元年） 時間当たりの輸送経費（円/hr） 13,636円/hr	（令和2年） 時間当たりの輸送経費（円/hr） 10,141円/hr～10,900円/hr	時間当たりの輸送経費（円/hr） 11,477円/hr	100%	いちご（博多あまおう）の関東市場（東一東京青果）への出荷について、大型トレーラー（40フィート）による船舶輸送に1月25日から3月29日までの間計15回取り組み、運送の効率化や品質の検証を実施。	・構成員は生産者団体2、物流事業者1、実需者1。実施具体策の検討のため、定例会議を年1回開催。 ・調査・分析のため、関東市場において取引会議、いちご他目合わせ会、結果検討会を予定していたが、コロナ禍の影響により中止。 ・いちごの船舶運送（パレット運送含む）運送を15回実施し、トラック運送の効率化等の実証を行った。	本事業の成果目標は、事業で取組む青果物の時間当たりの運送経費を事業実施前と比較し、16%以上削減することであるが、15回すべての運送について成果目標を達成する結果となった。 また、モーダルシフト及びパレット運送による全体的な輸送コストは上昇するものの品質面に影響がないことやトラックドライバーの運転時間短縮・負担軽減等運送環境が大幅に改善されることも検証されており、事業による成果があったことが認められる。

